

弘教寺



コロナ禍の不安

弘教寺住職 中山英昭

新型コロナウイルスの感染者が国内に広がって8ヶ月が過ぎました。感染が収束するどころか三波の感染が広がっています。全国では10月末で感染者が10万人を超えました。

経済、文化、社会に大きな影響を与えています。先の見えないコロナ禍の不安が高まっております。

ヨーロッパでも三波の感染が南ヨーロッパを中心に広がって、フランスやイギリスでは店での飲食や外出を厳しく規制する一ヶ月近いロックダウンに入っております。

日本では逆に経済復興のためとして、GOTOトラベル、GOTOイートなどの政策により経済、文化、社会を喚起しようとしております。このことがウイルスの感染のさらなる拡大につながらないか心配です。

ANA、JAL、JR各社等の大企業でさえ千億円単位の赤字額が予想されております。大企業だけでなく中小の企業も同様の傾向にあり、減益・赤字の状況が予想されます。企業の立て直しのために、人員の整理や解雇が当然ながら進んでいきます。さもなければ、企業倒産という状況が生まれます。

コロナ禍の現状では健全な企業であつても

第47号

発行所

〒370-0131 伊勢崎市境米岡二七九-二 浄土真宗本願寺派弘教寺 寺報編集部 電話0270(七四)0573



寺のQR

最悪の状況が生まれることは必然なことと思えます。そうした中で一番厳しい状況に追い込まれる人々が社会的弱者の方々です。非正規雇用者、外国人労働者、パート等で生計を立てているシングルマザーの人たち等は途端に生計の柱を失ってしまいます。

10月30日の朝日新聞に困窮するひとり親を支援するNPO法人の方の報告例が載っております。「水道代を節約するためにトイレの水は一日一回きり流さない。」「子供の一日の食事を減らす。」「さらに記事中3月期には非正規の女性労働者が29万人職を失ったというのです。」

北関東を中心にベトナム人研修生の人たちが子豚、鶏、ナシやりんご等を大量に窃盗し逮捕されました。すぐ近くの事件で誰かと思



コロナ禍の風景

ていたのですが、彼らも仕事を失い、思い余つての犯行だったようです。犯罪は犯罪ですが、ここにもコロナ禍の厳しい生活状況が見られます。 コロナ禍はやがて9ヶ月になるうとしております。健康と思つてい

る人々でも長期間の自粛生活は精神的に不安定になるものです。高齢者、持病を持つ人、心身に障害を持つ人などにとって心身共に疲弊してしまいます。

私どもに関係する方もこの期間で二人の方が自らの命を絶たれました。直接の原因ではないにしても、要因の一つであるかもしれせん。残念なことです。

先の記述中の報告では自死者は男性よりも女性の方が増加傾向にあるとのこと。

「コロナ禍で女性たちの困難が突然発生したのではなく、コロナが不平等を深めた。」(報告参考)とありました。このことは日本の社会的構造が根底にあるように思います。

コロナウイルスに感染することへの不安、雇用への不安、生活困窮への不安等様々な不安要因がある中で日々の生活をしてゆかなければなりません。

お釈迦様は『人生は苦なり』とお教えくださっております。行政の政策や地域の見守り等が早急に必要であると思いますが、「明けぬい夜はない」という言葉もありますように不安な先行きであります。コロナウイルスが収束するまでひたすら耐えながら日々を生きてゆくしかないのかなと思えます。

また、社会的弱者に目を向けて、地域、社会が支え合いながら共に歩んでいける社会作りをしていきましょう。

新型コロナウイルスの一日も早い収束を願うばかりです。

合掌

コロナ禍でのお盆合同法要

連日37度を超える猛暑が続いている最中の8月15日、現在の形に変わり6年目となったお盆合同法要が行われました。今年は新型コロナウイルスの影響で、当寺の行事も中止や見直しが余儀なくされました。そんな中でしたが万全の対策を講じて実施されました。

本堂に入る前の手指の消毒、マスクの着用、受付では非接触型温度計での検温、座席は十分な間隔をとりソーシャルディスタンスを確保、扉を開け扇風機を稼働させて換気。そして例年は午前2回で行われていた法要を今回は午前午後各2回の計4回で地域ごとに分けるなど、参拝者の密を避けるための対応がとられました。

法要では、青年僧侶として一段と風格を兼ね備えた大悟さん、真悟さんのお二人がご住職と共に勤められました。重厚な読経が本堂に響き渡り、猛暑やコロナ禍を忘れさせるような何とも言えない心地良さを感じました。

コロナとともに熱中症も危惧された今年のお盆合同法要も無事終了することができました。



(栗原政廣)

合掌



令和2年お盆の日々

お盆迎えの13日は例年通り、本堂には早朝から参拝者が続きました。混雑や焼香待ちがなくなりましたが、参拝者に配布したお明かり代わりのマッチの数は例年より少なく、コロナの影響を感じさせられました。また、県外の方々の姿がなく、故郷での墓参や法要を自粛されたことはとても残念でした。

13日の午後から14日夕方までは、予約されたご家族の初盆法要が1時間に一軒の割合で行われました。住職と二人の息子と3人でお勤めした後、ご法話は、息子たちが交代でさせていただきました。緊張しつつも浄土真宗のお盆についてお伝えしようと一生懸命勤めさせていただいております。初心者マークの二人ですが、熱心に耳を傾けてくださるご門徒様方にこうしてお育ていただき、有り難いことと感謝しております。

15日のお盆合同法要では、地域別4回の法要で、各参拝者は20名程で全体としては例年より少ない人数でした。しかし、年配・壮年の方々、子供連れの親子や赤ちゃんを抱いた若いご夫婦など幅広い年齢層の方々の姿は、いつも通りの参拝風景でした。また、自宅で自粛していた皆さんが久しぶりに顔を合わせ、マスク越しに親しく言葉を交わしていた姿も合同法要ならではの感じました。

住職と二人の息子の読経の中、お焼香は、密接を避けるための移動テーブルを廻して行われました。

住職からは、ご法話「終わるいのち、続くいのち」と題して、お念仏のお法をお伝えいただきました。ご聴聞される皆様にとって、お盆を機縁として故人を偲び「いのち」や「往生」を思い、感謝の心で手を合わすひと時だったかと思われました。

16日、数軒の初盆法要の後、午後には盆送りの方々が三々五々本堂で参拝して行かれ、お盆の日々が閉じられました。

コロナ禍でもできることを。一日一日をお念仏と共に歩んでまいりましょう。

合掌 (坊守)

水曜会報告・『七高僧の教え』(1)

私たち門徒は、親鸞聖人の示された浄土真宗の教えをいただいています。それは「阿弥陀仏の本願により救われる」という教えです。

この「教え」は、親鸞聖人が師とする法然聖人をはじめ七高僧の方々の教えと、親鸞聖人のお考えがあざなつて成り立ったものです。

七高僧の教えは、浄土教が作りあげられていく中で、千年にも及ぶ時代の変化と、インド、中国、日本の異質な文化を融和して、途切れることなく受け継がれてきました。

この連載は、黒田覚忍著『初めて学ぶ七高僧』を参考にして、七高僧が浄土教と親鸞聖人の浄土真宗に、どのような影響をあたえたかを学んでいきます。

親鸞聖人が七人を選ばれた理由は、阿弥陀仏の本願を信じ念仏に生きられたこと、著書により本願を広められたこと、本願についての新しい解釈をされたことの三つです。

七高僧の主な教えは、次号から紹介します
が、龍樹菩薩の難易二道、天親菩薩の一心
帰命、曇鸞大師の自力他力、道綽禪師の聖浄
二門、善導大師の要弘二門、源信和尚の報化
二土、法然聖人の選択本願などです。

寺の本堂の左側に七高僧の掛軸が掛けられ



七高僧の掛軸

ております、お徳を偲びましよう。

(橋本勝 合掌)

水曜会報告・『お経つてなに?』(1)

正信偈はお経ではないという話を聞きます。それは、お経はお釈迦さまの教えが書かれたもので、正信偈はお釈迦さまではなく親鸞聖人の教えが書かれたものだからと言うのです。

しかし、正信偈がお経のように「おつとめ」で読まれているのには、理由があります。正信偈は親鸞聖人が浄土真宗の根本教義を著された教行信証の行巻に納められた偈文(漢文のうた)で、「阿弥陀仏への帰依」「阿弥陀仏の本願」「お釈迦さまを讃える」「浄土教を伝えた七高僧を讃える」「人々を救ってくれる真実」の内容がまとめられたものだからです。

また、第八代門主の蓮如上人が浄土真宗の「おつとめ」の基本作法をつくられたときに、教行信証の教えの要が凝縮された正信偈をお経として読むようにされました。



浄土三部経

なお、浄土真宗の依りどころとするお経は「浄土三部経」です。正信偈は浄土真宗の門徒の皆さんがともに拝読できるお経として親しまれており、本山での正信偈の「おつとめ」は、大勢の門徒の声が和して壮大な響きとなつて感動いたします。

親鸞聖人が一字一涙の思いで著された正信偈を学び直したいものです。(山本勇三)

参考文献 山折哲雄監修「あなたの知らない親鸞と浄土真宗」

変わりゆく寺

コロナ禍の8ヶ月、寺行事が中止され仏法活動も制限されてきました。しかし、その中でも寺は動いています。



4月、古木となったツツジの植え替えを実施しました。新しい色合いが増え、5月初旬まで華やかなツツジの庭を演出してくれました。散歩や写真撮影に立ち寄った方もいましたが、コロナ禍で多くの方に呼びかけできず残念でした。今後、少しずつ入れ替えていく予定です。

10月末には、畳の客間二部屋を工事して絨毯(じゅうたん)に取り替えました。和室の良さもありますが、敷居を取って一部屋にする椅子やテーブルも自由に置いて、本堂の西から東まで広々と活用できるようになりました。今後の行事や活動に、距離を保つて利用できると思います。これにはご門徒の皆様からの護持会費も充てられています。皆様に使いたいようにとの改修実施です。お寺参拝の際には、是非、ツツジの庭を楽しみ、行事等にも参加して客間を活用して頂きたいと思っております。(坊守)



真悟の京都日記(11)

今回は、私が通っている華道教室についてお話しします。今通っている教室は、住職が昔学んだ「池坊」ではなく、「遠州流」という流派の教室です。先生が用意した花材を使って、先生の指定した生け方で生け、完成したところで先生に指導してもらっています。コロナ禍の今は、顔全体を覆う透明なフェイスマスクで指導をしてきています。

受講し始めたころは、どうしたらバランスがよく綺麗な形になるのか、切りすぎて失敗したらどうしよう、などと考え、なかなかうまくできませんでした。大体二年がたった今現在、未だにどうすればバランス良く綺麗な形になるのかはわかっていません。しかし、こういう風に生けたら綺麗じゃないか、というものを形にできるようになってきました。指導でも、基本的に一か所程度の手直しに収まるようになり、自身の成長を感じています。



この教室も、大学卒業で通えなくなる予定なので、残りの約四ヶ月、しっかりと力にしていきたいと思えます。そして、群馬に戻った時に、住職の豪華で綺麗なお華と同じくらい立派なお華を皆さんにお見せ出来たらと思っています。(中山真悟)

群馬歴史散歩みち 前橋広瀬川周辺(1)



群馬県の魅力度は毎年低迷しています。隠れた歴史を門徒の方々に少しでも知って頂きたいと思っています。

広瀬川は、群馬県渋川市、前橋市及び伊勢崎市を流れる利根川水系の一级河川です。今回は前橋文学館から広瀬川沿いに前橋公園までをボランティアガイドさんと約2時間かけて歩き、群馬の歴史に触れました。市街地の中央を流れる広瀬川は、「水と緑と詩のまち」のシンボルまえばしにふさわし潤いと安らぎの空間を提供してくれています。新たに対岸には萩原朔太郎の生家が移築されました。

前橋市文学館に収蔵されている吉田松陰の短刀は、明治9年、群馬産生糸の直輸出ルート開拓のため渡米する桐生の新井領一郎に初代県令楫取素彦の妻の寿が託した松陰形見の短刀です。「この短刀を、渡米を果たせなかつた兄の松陰と一緒」と告げた有名なエピソードの証拠の品が子孫から前橋市に寄託され、市が鑑定し「松陰の短刀」と認定しました。米国で4世代にわたって受け継がれ「松陰」の魂の入った短刀は140年を経て日本に戻りました。(西正裕)



※編集後記※

コロナ禍のため夏祭り、敬老祝賀会、運動会、ミニディサービスなど地域のほとんどの行事が中止となつてしまつた。ウイルス感染を恐れて活動的な生活や社会参加の機会が失われると、認知症発症のリスクが高まると言われている。高齢者にとってまさに八方塞がりの状況である。打開策は無く、ワクチン完成迄は、ひたすらマスク着用、手指の消毒、3密を回避し、僅かの社会経済活動を営むしかないかもしれない。(橋本豊)

◆ 行事予定 ◆ 令和2年 12月～ 令和3年 3月			
月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定
12月	6日	報恩講法要	
	12日	子供のつどい 中止	
	13日	壮年会例会	
	18日	婦人会例会	
1月	1日	元旦会	9日～16日 御正忌報恩講法要
	21日	婦人会新年会	
2月	7日	壮年会例会	14日～15日 実践運動研修会
	19日	婦人会例会	壮年会記念日研修
3月			17日～23日 春お彼岸
	25日	婦人会例会	